

自然農法の種子に自家採種できる

秋どりダイコンが新登場

研究部

育種の経緯

自然農法種子はキュウリ、トマトをはじめとした果菜類について特色ある品種が多数あり、自然農法実施者や家庭菜園に取り組む多くの方に利用頂いています。一方、秋野菜は品種が少なく、ニンジン「筑摩野五寸」のようなつくりやすく、品質の良いダイコン品種への要望が寄せられてきたことから、育種に取り組みました。

日本におけるダイコン栽培の歴史は長く、育種素材に用いた宮重大根は千年以上前から栽培されていると言われています。また、各地域の気候風土に適した地方品種（地大根）が100種以上もあると言われ、自家採種して楽しむにはもってこいの作物です。ダイコンは収穫する部分

が土に直接触れるため、土壌環境の影響を直接受けやすく、自分の畑で良く育ったものを選べば良いので、選抜が簡単であり、自家採種を繰り返すことで自分の畑に合わせやすい作物だと考えています。

そこで、土の力を引き出して育つ能力が高まるように、有機肥料を使用せず緑肥すき込みのみの無肥料栽培で十分に育つものを選抜し、かつ自家採種できる品種としたものが今回紹介する「ふじ宮重」です。ウイルス病に耐病性を持つ市販の青首ダイコンや宮重系固定種を交雑させたものを素材とし、富士山麓の火山灰土壌にて数年間の選抜・採種を繰り返して育成した固定種です。

ふじ宮重の特徴

収穫適期は、従来の宮重総太り等

に比べて遅く、播種後75～80日（写真1）、作土の深い火山灰土壌に適し、根長35cm前後で、空洞症等の生理障害（写真2・表1）やカブモザイクウイルスに強く栽培しやすいことが特徴です。食味は甘さと香気に富み、緻密な肉質で煮くずれにくく、汁の実や煮炊き、漬け物などで美味しく、大根おろしは甘いが辛味も強くなっています。

ふじ宮重の栽培のポイント

①図1の作型図にあるように、秋まき栽培に適しています。通常の大根栽培と同じでかまいませんが、草勢が強いため、熟畑では無施肥や少肥（ボカシⅡ型50～100g/m程度）で良いでしょう。収穫適期は、従来の宮重総太り等に比べて遅く、播種後75



自家採種もできる新品種「ふじ宮重」

～80日程度ですので、慌てずに収穫して下さい。

②火山灰土壌での栽培に適します。砂地や粘土質土壌では、草勢や根長、ひげ根の出やすさがばらつく傾向があるので注意が必要（写真3）ですが、自家採種を繰り返す、自分の圃場環境に合う



耐病総太り

ふじ宮重

宮重大長

播種後
60日



播種後
85日



写真1 耐病総太り・宮重大長とふじ宮重の生育比較（播種後85日で耐病総太りと同程度の大きさになる）

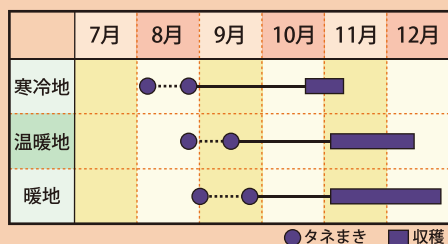


図1 ふじ宮重の作型図



写真2 空洞症発生の様子（2011年度 塩尻市圃場）



写真3 粘土質土壌で栽培し、細長いものと太く短いものに分かれた例

表1 空洞症の発生割合（％）の比較（2012年度）

品種		収穫時期（播種後日数）					
		60日	65日	70日	75日	80日	85日
少肥区	耐病総太り	5	5	10	10	40	45
	ふじ宮重	10	0	0	0	0	15
	宮重大長	5	0	10	20	15	50
標準区	耐病総太り	10	5	0	10	5	35
	ふじ宮重	0	10	10	5	5	25
	宮重大長	5	10	5	10	10	55

調査本数：各品種 20本

自家採種のポイント

ものを選抜することもおもしろいと思います。

① 自分の畑にあった個体を選抜するためには、播種適期の後半に、

30cm株間で1穴に8～10粒ほどまき、双葉展開時に生育の良いものを5本選抜し、本葉3～4枚で3本、本葉5～6枚時に1本立ちさせると良いでしょう。

② 自家採種をする際は揃いを確認する

ために、極端に細い個体や短い個体を避け、ひげ根や病虫害が少なく、根長の揃いが良く中庸な個体を最低20株ほど選抜して、1列（株間40～50cm）に植え直します。春の花芽が出てくる前までにキュウリアーチ等をたて防虫ネット等で覆い、虫による交雑を避けて下さい。風によつて近くの株から花粉が運ばれ受粉し採種できますが、花が咲いているときに、細く柔らかいプラスチック繊維でできたハタキで花茎を撫でるとより確実に受粉し、採取量が安定します。詳しくは「自家採種入門（農文協）」を参照して下さい。